

[漏水対策]

釜段工

- 必要な ●資材 ■工具 ★人数 (1箇所当たり(直径2m))
- 土のう240袋 ●ブルーシート1枚【3.4×5.4m】
 - ひも(結束用)4本【φ9mm、長さ2m】
 - 鋼杭34本【φ16mm、長さ1.2m】
 - 樋1本【塩ビパイプ、φ150mm、長さ5m】 ●土砂2^m
 - スコップ4丁 ■ハンマー2丁 ■たこづち2丁
 - 一輪車2台 ■カッター1丁
- ★必要人数25人



釜の大きさ

釜の大きさは、漏水口の大きさ、噴出量にもよるが、通常噴出口を中心に直径2~4m程度とする。

●土のうの並べ方・積み方

釜の型となる土のうの積み方は、噴出口を中心にピラミッド状に内側より外側に向かって、4段、3段、2段、1段となる。径が小さい場合は、3段、2段、1段でもよい。

土のうの並べ方は、噴出口は長手方向に並べ、外側は小口方向に並べる。

1



外側2列目以降は、土のうのしぼり口を外にして小口方向に、前段の土のうの合わせ目に次の土のうの中心がくるように並べる。この時、1列目長手積み土のうと2列目小口積み土のうの間を約30cm空け、土を詰め十分に締め固める。

土のうの継ぎ目(長手積み)、合わせ目(小口積み)にも十分土を詰める。

ポイント!!

釜段内に貯えられた水が保たれるように、間に詰めた土は十分に踏み固める。なお、不十分な場合は釜段の内側全面にビニールシート等を張ることもある。

2



各段の施工

同じ手順で各段毎に施工する。

3



概要

出水時に居住側に噴出する漏水に対して、川の水位と釜段工に貯えられた水との水圧を均衡にすることにより、被害の拡大を防ぐ工法です。



土のう積み完了等

同じ方法・手順で内側長手積み土のうが2段、3段、4段と所定の高さとなるよう積み上げ、外側小口積みは、内側長手積みより外に向かって1段ずつ少なく（低く）なるように積む。

積み上げる土のうの重ね合わせは、長手積み、小口積みともにレンガ積み（下段土のうの継ぎ目、合わせ目のところに上段土のうの中心がくる重ね方）とする。

4



支え杭の打ち込み

噴出口の長手積み土のうが4段以上となる場合は、釜を安定させるための鋼杭（木杭・竹杭も可）をレンガ積みとなっている土のう1袋に2本の割合で貫通するように打ち込む。

5



樋の取り付け

次に、あふれ出る水を流す（処理する）ため、樋（塩化ビニール製のパイプ）を、積みの土のう1個ぐらい低くしたところに設置し、樋の上に押さえ土のうを置く。同時に樋を支えるため、鋼杭をX状に2ヶ所打ち、X状の交差箇所を十字に結び、「いぼ結び」で結束し、その上に樋を乗せる。

樋は更に支え杭と一体となるよう、ひもで樋の上を8の字型に渡し、「いぼ結び」で結束する。

6



排水落下付近の施工

樋から落ちる水で侵食（深掘れ）されないようにシートを地面に敷き、水の落下部分に2～3袋土のうを置く。

シートのあおり止めとして四角にも土のうをしばらく口を水の流れる方向に置く。

完成

7